



懐かしい風景に逢いに行こう！

# 三津浜 レトロな 町歩き マップ

古三津版

室町時代から魚市と渡し船が賑くレトロな港町三津浜。戦災を免れたおかげで、かつての繁栄を偲ばせる町歩きがこちらに残っています。辻井戸の跡や町家に蔵に組み込まれた。醤油や味噌の醸造所や、染物屋、船具店、蒲鉾や干物の工場など、海との繋がりが感じられる様々な商いも見とれます。まるで町じゅうが博物館のようなこの地域は「みつばま生活博物館」とも称されます。

### 27 虎舞の里

古三津地区に古くから伝わる獅子舞の一種で、朝顔出兵を行った加藤嘉明が山中で猛虎を得、その皮と頭を太陽宮に献じたことが起源となつて、古三津の虎舞が生まれたと伝えられています。毎年10月1日に加藤神社の秋祭りに奉納されます。

### かつて古三津は戦場だった「刈屋畑の戦い」

慶長5年(1600)9月15日、天下分け目の関ヶ原の戦いが行われ、將を同じくして伊予国でも、町守将に出陣中の松前城主・加藤嘉明の留守を担って、毛利方の伊予攻取・河野家の再興・村上水軍の復活を目論んだ毛利連合軍3,500が、安芸国竹原を襲う9月15日(17日説あり)に三津浜沖の刈屋畑に結集、翌日三津浜に上陸し、古三津の刈屋畑の民衆に敗りました。同時に、毛利連合軍は松前城に使者を送り、城の明け渡しを迫りましたが、留守将校の奮勇の車馬/目撃証は「明日返答する」とし、その夜250騎の手勢を率いて刈屋畑を急襲、民衆に火を放ち壮絶な激戦となり、油断をしていた毛利方へ、村上元吉・曾根高房・村上吉忠など豊の武将たちが討死してしまいました。この戦いは翌日以降も萩原城や久米の如來院などで23日まで続きましたが、いずれも加藤軍が勝利し、その夜、関ヶ原で西軍敗北の報を聞き、翌日、毛利勢は嵐早の酒から竹原へ撤退して行きました。これが「伊予の関ヶ原・刈屋畑の戦い」であり、古三津1〜2丁目の個人宅内には、今でもこの戦いで亡くなった方々の墓を祀る塚・祈などが沢山あり、丁寧に祀られています。

### 用水路から農村の風景に思いを馳せる

三津が港町、商業地として栄えたのは松山藩の御船手置かれた後の事だと言われます。古三津はその以前から農村として多くの農民が生活していました。現在では農地のほとんどは住宅街や道路になってしまいましたが、小川や用水路、稲束の流れを辿って歩くと、一帯に田園の広がっていた風景が想像できます。また方角にある御田王の歌「御田津に船乗りせむと月待てば潮もかみなひき今津波まで」の御田津とは古三津地域だと考えられています。三津は古三津における天皇が伊予の鷹(道後温泉)に來浴される折に、御田王を停泊された津浦(浦)であったこと(「御津(あまつ)」と明はれ、それが「三津(みつ)」になったという説があります。

発行日/令和2年3月25日改訂版発行  
発行/三津浜地区まちづくり協議会・松山西部地域開発協議会  
印刷/(株)松山印刷所 デザイン/genelize design

### 27 伊予鉄道三津駅

今も昔も三津駅はこの町の顔です。明治21年(1888)に松山市駅などと同時に四国で最初に作られた駅を言われ、かの有名な坊っちゃん号がここに乗り込んだのもこの三津駅です。現在の駅舎は三代目ですが、長く続いた先代駅舎を再現した外観となっています。中にはトイレと自販機、乗子顔月堂のカフェや店舗があります。菓子販売の他、三津交差路としてレンタサイクルの受付や神輿の展示、催事の広場なども行っています。毎月10月1日(祝日の場合翌日)です。



### 48 村要本店

三津〜古三津に4件ある醤油屋さんの中で最も規模が大きいムラヨリ醤油。醸造所に沿って造地があり、歩くとも醤油の香りが感じられます。直販もしているので、敷地内に入つて歴史的な木造建築も楽しめます。(平日の8時から17時まで)



### 42 常夜灯

この常夜灯はかつて宮前尋常小学校の標に置かれていましたが、昭和34年(1968)に敷地に移動されました。秋祭りに「金屏風太極拳」ののぼりが掲げられ、金屏風さんと呼ばれています。

### 43 村上大明神

慶長5年(1600)刈屋畑の合戦において戦死した毛利軍の義の太刀、村上元吉の祠です。元吉は能島村上水軍の総帥、能島城の城主でした。お墓は能島農村町の御海山にあります。

### 44 備光寺

天平年間(729-716)伊予義の祖藤原利純に備光上人が行基菩薩御作の十面観音像を尊像に迎えて一尊観音菩薩の法が開基と伝わっています。弘安年間(1784-1828)地震津波の天災に遭遇、僧侶は観音像の尊を以て山を離れ、古三津に寺を再建し人々は刈屋(神田町、住吉町)新別荘(高尾)に住んだそうです。

### 45 久枝神社

かつてこの付近にあった住吉神社、祝詞は、若根神社が明治3年に神社統合令によって能島神社へ合併されました。その後明治12年に村民の要望により、許しを得て現在地に奉遷し若根を久枝神社と稱するようになりました。境内には御立石、朝夜井戸、熊田津の磯などがあります。

### 28 石崎十力顕彰碑

ナカは三津の藤井町で文政2年(1819年)に生まれました。夫と死別後、三津屋という屋号で女子専門の私塾を開き、明治5年(1872)の学制発布によって小学校が設置される以前から女子教育の普及に貢献しました。彼女の功績を称え、三津駅のすぐ南側に設置されています。



### 46 岡田十五郎神社

文政年間、用水不足に苦しむ村の現状を憂へ、現在地(松山)中野新宮学校敷地の辺りに大池を築工しての御田王十郎です。以来津波は頻りに、村民の暮らしは豊かになりました。この久方の合戦の戦害1700年にあたふ、岡田十五郎の威徳をたたえ、平安朝末に三津津地衣敷が建立した神社です。



### 47 藤原純友顕彰碑

藤原純友は、平安時代中期に活躍した武将です。瀬戸内海を襲撃討伐を朝廷から命じられ討死しますが、逆に海軍の頭目として補償せず一守利島の日置島を叛乱に扇動して起った。博多海軍の戦いでこの地に敗北し、その首級を献上したとされています。大明神ヶ丘の一角に建ち、藤原と云われる土台石があり、後世に伝えられたその付近に建が建てられました。

### 29 九人地蔵尊

天和4年(1684)に古三津村、堀川の浦船九人が悪天候のため山口県の高防島に漂流し上陸しました。折り返す船中では浦船に強盗殺人があり、古三津の漁師達に犯人と問われ殺害されました。後に冤罪と分かる九人は地蔵尊として浦船と古三津で手塚に祀られました。



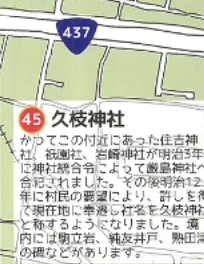
### 34 若宮様

「若宮様」の石碑とおぼやけの石碑が建てられています。「慶長5年刈屋畑の戦いで戦死した加藤嘉明の霊を古三津として祭った(中略)神像を建立した」



### 35 能島さん

慶長5年(1600)刈屋畑の戦いで戦死した村上元吉の武勇の徳で、石碑の(河、内子町)主の嫡男で、この戦いで河野方に松前城明け渡しを迫る使者、藤原高房の領地に対する調略などの重要な役割を担いました。(注)見学の際は、当家の許可を得てください。



### 30 千本地蔵尊

別名が松山城四方角の地蔵尊。松山城上機式に四方角の御を古三津の百姓達が持ったので、これを持ち帰ったものという伝説があります。千本とは昔の地名で、蔵様の日陰に千本の木が千本揃えられたことに由来します。現在は新出観音と同じく法雲寺の横外建造物となっています。



### 36 長袖さん

刈屋畑の戦いに巻き込まれた刈屋畑に戦った神宮が公家になってしまったとされています。(注)見学の際は、当家の許可を得てください。



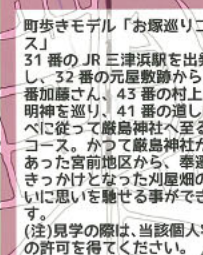
### 37 曾根さん

慶長5年(1600)刈屋畑の戦いで戦死した曾根兵衛高房の(河、内子町)主の嫡男で、この戦いで河野方に松前城明け渡しを迫る使者、藤原高房の領地に対する調略などの重要な役割を担いました。(注)見学の際は、当家の許可を得てください。



### 31 JR三津浜駅

昭和2年(1927)に予備線伊予北条〜松山間の開業と同時に設置されました。当初は伊予鉄道駅と松山駅の間に設けられ、伊予鉄道として三津浜町民の一丸となった運動と、当時の官紳町長らの努力により現在の三津浜駅ができました。駅舎にはもう一人の多摩屋がテナントとして入っています。



### 32 元屋敷跡 (御津大明神)

永正5年(1508)に古三津の東山に東山寺として創建し、享禄元年(1528)に現在地に移転、天文12年(1543)に河野清通(通名/法雲寺)を寺内に遷したことから、慶安2年(1649)に法雲寺と改められたと伝わっています。能島城のような山門や、私法大立立像、巨大な地蔵の像、ミニ八十八ヶ所砂隠などがあります。



### 38 法雲寺

永正5年(1508)に古三津の東山に東山寺として創建し、享禄元年(1528)に現在地に移転、天文12年(1543)に河野清通(通名/法雲寺)を寺内に遷したことから、慶安2年(1649)に法雲寺と改められたと伝わっています。能島城のような山門や、私法大立立像、巨大な地蔵の像、ミニ八十八ヶ所砂隠などがあります。



### 32 元屋敷跡 (御津大明神)

三津島神社は元々はこの付近にありました。慶長5年(1600)の刈屋畑の戦いで戦死したことが現在地に移りましたが、この場所でも元屋敷跡として祀られています。見学の際は、当家の許可を得てください。



### 36 長袖さん

刈屋畑の戦いに巻き込まれた刈屋畑に戦った神宮が公家になってしまったとされています。(注)見学の際は、当家の許可を得てください。



### 38 法雲寺

永正5年(1508)に古三津の東山に東山寺として創建し、享禄元年(1528)に現在地に移転、天文12年(1543)に河野清通(通名/法雲寺)を寺内に遷したことから、慶安2年(1649)に法雲寺と改められたと伝わっています。能島城のような山門や、私法大立立像、巨大な地蔵の像、ミニ八十八ヶ所砂隠などがあります。



### 33 阿部さん、橋本さん

慶長5年(1600)9月刈屋畑の戦いにおいて戦死した武将、阿部兵衛守と橋本兵衛吉介のお墓です。これらの武将の詳細は不明ですが、阿部氏・橋本氏は因幡国を源流とする一族の者が多いとされています。



### 37 曾根さん

慶長5年(1600)刈屋畑の戦いで戦死した曾根兵衛高房の(河、内子町)主の嫡男で、この戦いで河野方に松前城明け渡しを迫る使者、藤原高房の領地に対する調略などの重要な役割を担いました。(注)見学の際は、当家の許可を得てください。



### 39 加藤さん

慶長5年(1600)刈屋畑の戦いで戦死した加藤嘉明とその他の加藤が祀られています。(注)見学の際は、当家の許可を得てください。

